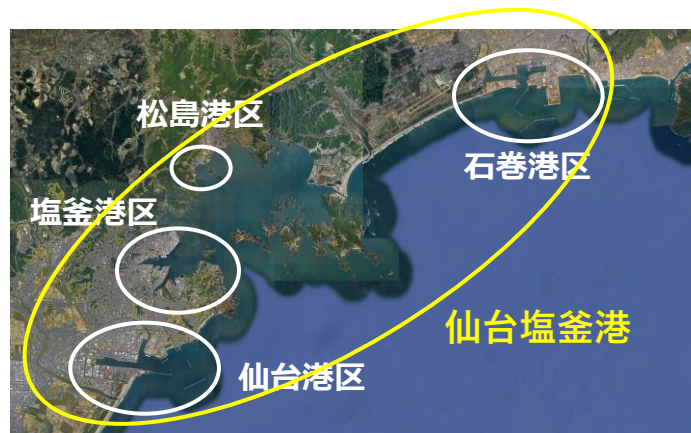


仙台塩釜港 長期構想委員会

第 3 回委員会 説明資料



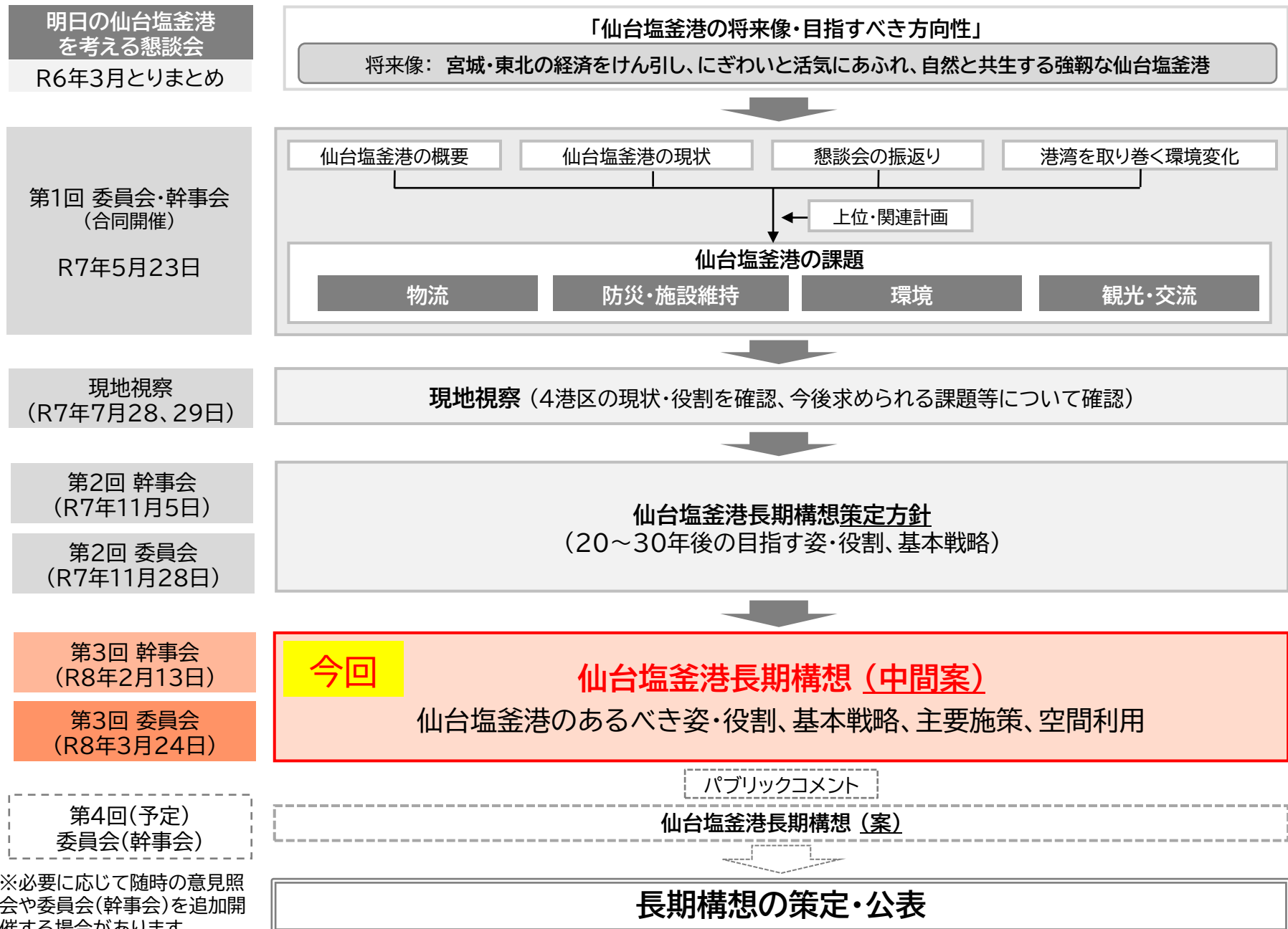
令和 8 年 3 月

宮城県土木部港湾課

- 1 第3回委員会の進め方について
- 2 第2回委員会での主要意見と対応方針
- 3 長期構想の基本戦略(案)について
- 4 将来像を実現するための主要施策(案)について
- 5 長期的な港湾空間利用方針(案)について
- 6 その他(次回開催予定、連絡事項等)

はじめに

(はじめに)長期構想の進捗状況



明日の仙台塩釜港
を考える懇談会
R6年3月とりまとめ

第1回 委員会・幹事会
(合同開催)
R7年5月23日

現地視察
(R7年7月28、29日)

第2回 幹事会
(R7年11月5日)
第2回 委員会
(R7年11月28日)

第3回 幹事会
(R8年2月13日)
第3回 委員会
(R8年3月24日)

第4回(予定)
委員会(幹事会)

1 第3回委員会の進め方について

1-1. 第3回委員会の進め方について

第3回委員会でご議論いただきたい内容

1 第2回委員会資料の修正について

- 第2回委員会でのご意見を踏まえ、第2回委員会で提示した課題や基本戦略(案)について、修正した内容をご確認いただく。

➡ ご意見の内容が適切に反映されているかご意見を伺いたい。

2 将来像を実現するための主要施策(案)について

- 各基本戦略における主要施策を提案する。

➡ 主要施策の妥当性、課題を踏まえた効果的な施策等についてご意見を伺いたい。

3 長期的な空間利用方針(案)について

- 各主要施策を展開する上での空間利用方針を提案する。

➡ 効率的・効果的な空間利用となっているか等についてご意見を伺いたい。

今回の議論を踏まえ、長期構想(中間案)の修正・とりまとめ

長期構想(中間案)に対するパブリックコメントの実施

パブリックコメントと並行して各委員へ意見照会を実施

長期構想(案)のとりまとめ ➡ 第4回委員会へ

1-2. 長期構想(中間案)の構成

1. 仙台塩釜港の将来像

- 1.1 これからの社会における港の役割
- 1.2 仙台塩釜港の将来像
 - 1) 宮城・東北の経済をけん引する港
 - 2) 災害対応に強い強靱な港
 - 3) 自然環境と共生する港
 - 4) にぎわいと活気にあふれる港
- 1.3 港湾で取り扱う貨物量の将来見通し
 - 1) 仙台塩釜港の物流ネットワーク
 - 2) 将来における貨物量の見通し

2. 将来像実現に向けた基本戦略

- 2.1 基本戦略のコンセプト
- 2.2 4つの分野における基本戦略
 - 戦略1 物流戦略
 - 戦略2 防災・維持管理戦略
 - 戦略3 環境戦略
 - 戦略4 観光・交流戦略

3. 各戦略における主要施策

- 3.1 戦略・主要施策の体系図
- 3.2 各戦略における主要施策
 - 戦略1 物流戦略
 - 戦略2 防災・維持管理戦略
 - 戦略3 環境戦略
 - 戦略4 観光・交流戦略

4. 長期的な港湾空間の利用方針

- 4.1 長期空間利用の考え方
- 4.2 長期空間利用計画

中間案 (今回)

- ・過年度の懇談会
- ・前回委員会まで

今回 御議論
いただく部分

最終案 (次回以降)

5. 長期構想の実現に向けて

- 5.1 実現に向けたロードマップ
- 5.2 港湾計画での対応方針
- 5.3 長期構想策定後の取扱い

【資料編】

- 1) 仙台塩釜港の現状・課題
- 2) 長期構想の位置付け
- 3) 仙台塩釜港のあらまし
- 4) 仙台塩釜港をとりまく社会情勢変化
- 5) 関連計画
- 6) 委員名簿
- 7) 用語集

※骨子は、前回委員会・幹事会の御意見を踏まえ一部修正しています。

2 第2回委員会での主要意見と対応方針

2.第2回長期構想委員会の結果

1 第2回委員会の開催概要

(1) 日時

令和7年11月28日(金) 午後2時から4時まで

(2) 場所

仙台国際センター 展示棟
(仙台市青葉区青葉山8-1)

(3) 出席者

学識経験者、経済団体、港湾関係者、国・関係市町
(委員 全33名中30名参加) 対面・web

(4) 内容

- これまでの議論や現地視察を踏まえた課題
・論点の整理について
- 長期構想の基本戦略(案)について
- 長期構想の骨子(案)について
- 貨物量の将来需要推計 など



2 各分野における主な意見

【物流・産業】

- ・ 物流にしる人流にしる、港だけでは完結しない。陸上交通との連携によりスムーズな物流・人流が実現できるという視点が重要。

【防災】

- ・ 南海トラフ地震等の発生時のバックアップ体制(仙台塩釜港の役割)については、広域的な視点から考える必要がある。

【施設整備・維持】

- ・ 塩釜地区については、浚渫土砂の処分、用地確保に向けた新たな土地の創造を目指す必要があるのではないか。

【観光・交流】

- ・ 観光振興においては、ハード整備だけでなく特に、松島港区から塩釜港区への周遊を促すソフト対策や、食文化の発信などの魅力づくりが不可欠である。

【環境】

- ・ カーボンニュートラルポート(CNP)の形成にあたっては、化石エネルギーなどの転換が、関連する中小企業の経営や雇用に与える影響についても考慮し、技術開発や排出抑制技術の活用も含めた対応策を記載すべき。

【その他】

- ・ 「統合港湾」から「総合港湾」へのコンセプトの転換について、単なる足し算ではなく、機能の重複を許しつつ全体最適を図るものであることを、県民にも分かりやすく説明する必要がある。
- ・ 港湾がもたらす経済効果に加え、雇用創出効果や住民満足度の向上といった「社会的価値」を可視化し、地域社会への貢献を県民に分かりやすく示すことが重要である。

2.第2回委員会での主要意見と対応方針

全体に対するご意見(1/2)			
主要意見	対応	対応案	対応箇所
①「課題⑤：海面処分場の確保」については、何のために必要なのか説明を追加した方が良い。	修正	● 資料の記載を「 浚渫土砂の適正処分と用地需要に対応した 海面処分場の確保」という表現に修正しました。	資料4 P.16
②「統合」と「総合」は何が違うのか、もう少しわかりやすく表現できないか。	記載削除 ・ 表現修正	● 主旨としては、 従来の方針からさらに発展的な視点に立って 、各港区の機能特化のみならず、1つの機能を複数港区で担う連携・補完体制の構築による「総合港湾」を目指すことを表現したいと考えたものですが、これまでの機能特化の考え方が「三港統合」の象徴的な整備方針であるという前提条件が必要となるため、分かりにくい表現であったと考えます。 ● 「統合」からの方針転換ではなく、また、差別化を特に強調したいものではないことから、「 統合」と対照的な表現とすることを改め、「総合港湾」の主旨をわかりやすく伝える表現に努めます。	記載削除 資料4 P.13 資料を参考 資料へ移動 資料4 P.14
③20年後に予測される港湾労働のAI化・ロボット化を意識した構想にしてほしい。	修正	● 資料の記載を「脱炭素化の進展、 DX・GXの進展 、クルーズ振興・・・」という表現に修正しました。	資料4 P.13
④住民に港湾の存在価値をわかってもらうことが大事である。(港湾の地域社会への貢献の見える化)	反映	● 長期構想の冒頭部において、 港湾と社会や人々の暮らしとの関わりについての説明を加えます。 ● なお、専門用語が多いため、 付属資料として用語集を挿入し 、一般の方にも御理解いただけるように工夫します。	(本文 中間案に 反映)

2.第2回委員会での主要意見と対応方針

全体に対するご意見(2/2)			
主要意見	対応	対応内容	対応箇所
⑤現長期構想の戦略3「一体港湾として民営化」とあるが、想定されている民間パートナー先はあるか。	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 現時点で、仙台塩釜港における民営化を目的とした民間パートナーはおりません。 ● 港湾運営の民営化については、引き続き、他港事例を研究するとともに、関係者とも十分に意見交換しながら、慎重に検討してまいります。 	—
⑥長期構想表紙(案)について、県民が港に親しみを持てる水辺空間のイメージを追加したらどうか。	反映	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期構想の表紙や本文中において、ご指摘の水辺空間のイメージを追加するよう検討します。 	(本文 中間案 に反映)
⑦今後、30年後は大きく変化することが想定される。4つの戦略について、戦略の見直しの可能性について、担保しておく必要がある。	反映	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期構想の本文中において、4つの戦略を含め、「長期構想について定期的に見直しを行う」ことを追記します。 	(本文 中間案 に反映)
⑧全体コンセプトについて、“機能再編・再構築による、あらゆるニーズに応える「総合港湾」へ”に見直したらどうか。	修正	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体コンセプトについて、【仙台塩釜港の全体最適化により、あらゆるニーズに応える「総合港湾」へ】という表現に修正しました。 	資料4 P.22
⑨AIターミナルの実現に加え、サイバーポートの導入やROROターミナルなどDXの活用も戦略の中に盛り込んだらどうか。	追記	<ul style="list-style-type: none"> ● ご指摘を踏まえ、物流戦略の説明において、「デジタル化やAIの活用によるDXを推進し、省力化や効率化、…」と表現を修正するとともに、主要施策の例に、サイバーポートや高度なターミナル管理の実現を追記しました。 	資料4 P.23

2.第2回委員会での主要意見と対応方針

物流・産業に対するご意見(1/2)			
主要意見	対応	対応案	対応箇所
① 2024年問題だけではなく、2026年問題についても、物流業界の変化を考慮し、長期構想に反映する必要がある。	動向を踏まえて反映	<ul style="list-style-type: none"> 「改正物流効率化法の施行」や新たに策定される「物流施策大綱」など、今後の港湾施策の展開において把握しておくべき物流政策の最新動向を的確に捉えながら、できる限り長期構想へ反映するよう努めます。 	資料2
②物流にしろ人流にしろ、港だけでは完結しない。陸上交通との連携によりスムーズな物流・人流が実現できるという視点が重要。	主要施策等に反映	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘のとおり、仙台塩釜港が物流・人流の両面で東北の拠点として機能するためには、陸上交通との連携が必要不可欠です。 昨年10月の「東北圏広域地方計画中間とりまとめ(案)」との整合を図るほか、県内、東北における道路整備・鉄道貨物ターミナル等の整備状況などを注視して検討してまいります。 	資料1 P.18、21、25
③仙台港区においては、将来の需要を見据えて、コンテナターミナルの沖側を拡張エリアとして想定しておくことが重要である。	主要施策に反映	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘のとおり、仙台港区の貴重な拡張余地を十分活用できるよう、課題の整理において、拡張の可能性を示したところであり、今回の主要施策にも反映しております。 	資料1 P.24
④物流機能強化に向けて、背後高規格道路とのアクセス強化が必要である。	修正	<ul style="list-style-type: none"> 課題の記載を「広域道路へのアクセス強化」に修正しました。 物流機能の強化には広域道路とのアクセス強化は重要な視点であり、広域的な道路計画の状況を踏まえて、適切な臨港交通が確保されるよう検討してまいります。 	資料4 P.18
⑤戦略1「宮城・東北のサプライチェーンを支える」の中で、「東北」に限定する必要はあるのか。	修正	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘のとおり、「東北」に限定したような誤解を生じ得ることから、主旨を明確にするため、戦略1の記載を「宮城・東北の産業と経済を支え、グローバルサプライチェーンに貢献する最高の港湾物流サービスの提供」という表現に修正しました。 	資料4 P.22

2.第2回委員会での主要意見と対応方針

物流・産業に対するご意見(2/2)			
主要意見	対応	対応案	対応箇所
⑥地球温暖化や気候変動を踏まえた今後の北極海航路の利用可能性について言及しないのか。	追記	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規航路の誘致の可能性については、特定の航路に限らず、あらゆる誘致の可能性を模索していく考えです。 ● 課題整理において、「北極海航路の開発・利用に関する動向を注視」を新たに追記します。 	資料2 資料3
⑦AIターミナルの整備推進に向けては、新たな埋立地・代替用地の確保が不可欠である。	主要施策に反映	<ul style="list-style-type: none"> ● 主要施策において、コンテナ貨物量の増大を見据え、港湾用地の拡張・再編と合わせて、効率的・生産性の高い持続可能なAIコンテナターミナルの実現を図ることと記載します。 	資料1 P.24
⑧「化石燃料からの転換」について、地元荷役業者対応として、貨物構成などに着目した将来像を加味して欲しい。	計画策定において検討	<ul style="list-style-type: none"> ● 物流戦略の主要施策例に「脱・低炭素燃料の受入機能強化」を記載しており、次世代エネルギーのみならず、バイオマス発電や石炭燃料の転換など、取扱貨物の変化も見据えて検討していく考えです。 ● 今後の貨物の種類・量の変化を踏まえ、適切な受入環境の整備に向けて、港湾運送事業者の意見も伺いながら取り組んでまいります。 	—
⑨塩釜地区の既存航路の整備を促進して欲しい。	追記	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題整理表に記載の「既定計画の推進(航路の整備)」と整合するよう、港区別の論点整理(塩釜)に「航路の整備」を追記しました。 	資料4 P.18
⑩塩釜地区の航路整備は、新たなルートについても検討して欲しい。	計画策定において検討	<ul style="list-style-type: none"> ● まずは、現計画航路の重要性・実現可能性をしっかりと整理したいと考えていますが、入港船舶がさらに増大していくなどの将来的な需要の変化が見込まれる場合には、新たなルートの可能性も視野に望ましい航路体系のあり方を検討してまいります。 	—
⑪仙台港区のうねりについて、課題として認識すべきである。	追記	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題整理表及び港区別の論点整理(仙台)において、「安全な荷役に資する港内静穏度の適切な確保」を新たに追記しました。 	資料3 資料4 P.26

2.第2回委員会での主要意見と対応方針

防災に対するご意見			
主要意見	対応	対応案	対応箇所
①南海トラフ地震等の発生時のバックアップ体制(仙台塩釜港の役割)については、国家レベルの視点から考える必要がある。	反映	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本戦略に示した広域海上防災拠点については、離半島を含む広域の視点のほか、東北圏域を超えたバックアップも見据えて取り組む考えとしております。 ● なお、圏域を超えた広域の港湾BCPの策定については、国におけるガイドラインの検討状況も注視しながら、関係行政機関等と連携して取り組んでまいります。 	資料1 P.31
②戦略2(防災・施設維持戦略)の中に協働防護について記載したらどうか。	反映	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題整理表において、「将来の気候変動を見据えた施設更新や協働防護の方針整理」を新たに追記しました。 	資料1 P.31 資料3

施設維持に対するご意見			
主要意見	対応	対応案	対応箇所
①塩釜地区については、浚渫土砂の処分、用地確保に向けた新たな土地の創造を目指す必要があるのではないか。	反映	<ul style="list-style-type: none"> ● 航路維持や航路幅・増深に伴い発生する大量の浚渫土砂について、用地需要や海域環境等を勘案のうえ土地造成の埋立用材として活用し、安定的に処分できる場所を確保する必要があると考えています。 ● 主要施策においては、ご提案いただいた塩釜港区湾奥部の埋立なども含め、用地需要とも適切に関連付けながら検討してまいります。 	資料1 P.30

2.第2回委員会での主要意見と対応方針

環境に対するご意見			
主要意見	対応	対応案	対応箇所
①4つの視点できれいに課題が整理されているが、例えば、低炭素型のクルーズ船の受入(環境×観光)のような、分野と分野の重複している部分の対応も盛り込んでいく必要がある。	反映	<ul style="list-style-type: none"> 分野と分野の重複している部分の施策について、長期構想本文における主要施策の一覧表を掲載する際に、重複部分を関連付けて整理するなどの工夫を検討します。 	(本文 中間案 に反映)
②次世代エネルギーの受入供給動向に応じた港湾環境整備を進めていく必要がある。	修正	<ul style="list-style-type: none"> 港区別(仙台・塩釜・石巻)の論点整理における記載と整合を図るため、環境戦略の記載を「水素等の次世代エネルギーの受入・供給の動向も見据えた…」という表現に修正します。 	資料4 P.25

2.第2回委員会での主要意見と対応方針

観光・交流に対するご意見			
主要意見	対応	対応案	対応箇所
①仙台港区の拡張エリアでは、物流とマリナクティビティが両立できるような取組の検討も必要である。	修正	● 港区別の論点整理(仙台)に記載の「マリナクティビティの促進」を「マリナクティビティとの共存」と表現を修正しました。	資料4 P.17
②松島港区の課題⑩「インバウンドの増大に対応した受入体制」のインバウンドにはクルーズ客を含む記載が望ましい。	修正	● 港区別の論点整理(松島)に記載の「インバウンドの増大に対応した受入体制・・・」を「インバウンド・クルーズ客の増大に対応した受入体制・・・」と表現を修正しました。	資料4 P.20
③仙台港区のフェリー利用者に対する交通アクセスの強化が必要(仙台臨海鉄道の活用等)。	追記	● 港区別の論点整理(仙台)において、「フェリーやクルーズ旅客の円滑な二次交通の確保」を追記しました。	資料4 P.17
④現状で仙台港区でのクルーズ船の受け入れは厳しく、塩釜港区や石巻港区へ集約すべき。	反映	● 観光戦略のクルーズ船受入体制の強化については、仙台・石巻に塩釜も加えた連携・補完体制の構築が必要と考えております。 ● <u>仙台港区の貨物利用への影響をできる限り低減していくため、ご指摘いただいた受入上限なども含めて検討</u> してまいります。	資料1 P.36
⑤観光振興を考える上では、ハード整備にとどまらず、ソフト対策を含めた議論が必要である。	追記	● 現在、国が策定に取り組んでいる「第5次観光立国基本計画」の議論においても、オーバーツーリズム対策や地方誘客の促進に向けたコンテンツの充実化、多様な観光主体との連携など、様々なソフト対策を講じることが重要と整理されております。この点を踏まえ、戦略の内容に「 <u>官民の多様な事業主体との連携</u> 」を新たに追記します。	資料4 P.26

3 長期構想の基本戦略（案）について

3-1. 将来像実現に向けた基本戦略(案)

新たな長期構想の基本戦略(案)

全体コンセプト

仙台塩釜港の全体最適化により、あらゆるニーズに応える「総合港湾」へ

4港区が持つそれぞれの強みを最大限に生かしながら、港区毎の機能強化に留まらず、ハード・ソフトの両面において連携・補完し合えるよう機能の再編と再構築を図ることで、総合港湾として最適で最高な港湾サービスを提供し、多様化する港湾ニーズへの的確に対応していく。

4つの戦略

戦略1(物流戦略)

宮城・東北の産業と経済を支え、グローバルサプライチェーンに
貢献する最高の港湾物流サービスの提供

戦略2(防災・施設維持戦略)

BCPが充実した安全・安心で強靱な広域海上防災拠点を構築

戦略3(環境戦略)

自然環境と共生し、脱炭素社会の実現をけん引する
カーボンニュートラルポートを形成

戦略4(観光・交流戦略)

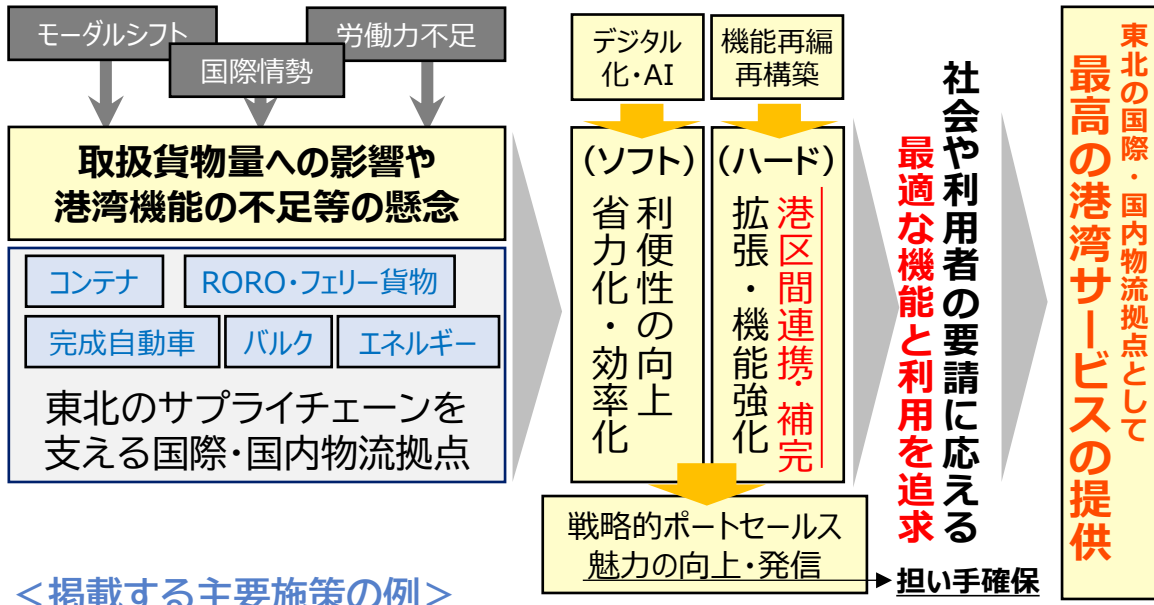
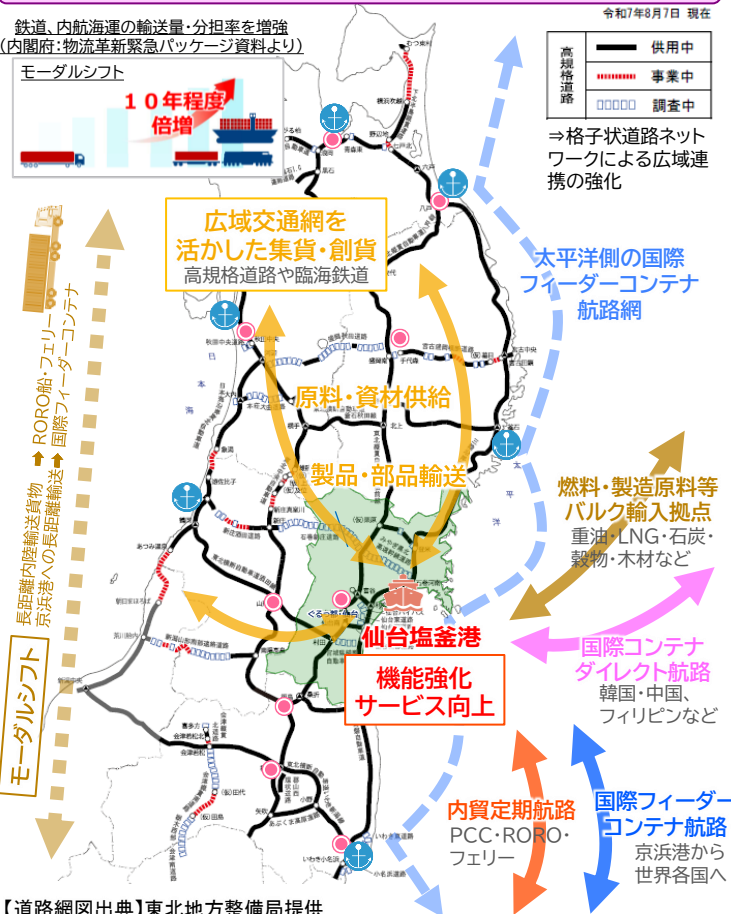
地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

3-2. 各基本戦略(案)の要点 ①

戦略1(物流戦略) 宮城・東北の産業と経済を支え、グローバルサプライチェーンに貢献する最高の港湾物流サービスの提供

- モーダルシフト進展による港湾利用の増大や将来の労働力不足等を見据え、各港区の機能強化のみならず最適な連携・補完体制を構築するとともに、デジタル化やAIの活用によるDXを推進し、省力化や効率化、利便性の向上をソフト・ハードの両面から追求することで、東北の国際・国内物流拠点として地域経済の成長をけん引する最高の港湾サービスの提供を目指す。
- これら仙台塩釜港の強み・魅力を生かし、港湾取扱貨物の集荷・創貨の促進、定期航路やクルーズ、工業誘致など、東北圏域と国内外の寄港地・企業から選ばれる戦略的ポートセールスを展開するとともに、港湾分野の担い手確保・育成にも貢献していく。

仙台塩釜港が担う東北の物流ネットワーク



<掲載する主要施策の例>

コンテナ

東北のグローバルゲートウェイ実現に向けたコンテナ物流強化

- ◆ 需要に応じた拡張・再編
- ◆ サイバーポートやAIの導入
- ◆ コールドチェーン強化など

ユニットロード

東北太平洋側のユニットロード拠点機能強化

中野地区

- ◆ 岸壁-ヤード間移動の改善
- ◆ 各港区を含めた機能再編・補完体制の構築
- ◆ デジタル技術を活用した高度なターミナル管理の実現など

バルク

立地企業の動向や新たな産業誘致等を見据えたバルク機能強化

- ◆ 船舶大型化対応・静穏度確保
- ◆ 脱・低炭素燃料の受入れ機能強化 など

【道路網図出典】東北地方整備局提供

3-2. 各基本戦略(案)の要点 ③

戦略3(環境戦略)

自然環境と共生し、脱炭素社会の実現をけん引するカーボンニュートラルポートを形成

- 2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、工業やエネルギー産業が集積する仙台塩釜港において、水素等の次世代エネルギーの受入・供給の動向も見据えた官民連携による港湾脱炭素化の取組を計画的に進める。
- 干潟や日本三景の独自景観を貴重な資源と捉えた自然環境の保全・共生を図り、ブルーカーボンの導入も含めた取組を推進する。

仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画の概要

- (1) 計画期間 **2050年まで**
- (2) 計画における温室効果ガス排出量の削減目標
 - 2013年度(基準年) ⇒ 329.9万トン
 - 2019年度(現状) ⇒ 321.9万トン
 - 2030年度(短期) ⇒ 165.0万トン(50%削減)
 - 2040年度(中期) ⇒ 82.5万トン(75%削減)
 - 2050年(長期) ⇒ 実質ゼロの実現

- (3) 取組方針(官民連携による脱炭素化の推進)
 - ① 温室効果ガス削減・吸収に関する取組

産業活動(工場等)や港湾物流(荷役・輸送)における設備・機械等の電化や水素等の次世代エネルギー転換の取組を推進
 - ② 港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する取組

製油・発電等のエネルギー製造過程における低・脱炭素化や次世代エネルギー供給拠点の検討、施設整備等の取組を推進



◀カーボンニュートラルポートのイメージ(国土交通省港湾局HPより)

工業やエネルギー産業が集積する仙台塩釜港

- 東北を代表する物流拠点
- 火力発電所や製油所等が立地するエネルギー拠点
- 油槽所が集積するエネルギー供給拠点
- 藻場等の豊かな自然環境

石巻港区・紙・パルプ、木材関連、飼料など製造業が集積する工業港

各港区が連携

CO2推計排出量(2013基準)

- 約195万トン/全体の59%
- 約4万トン/全体の1%
- 約131万トン/全体の40%

国の2050年カーボンニュートラル宣言

第7次エネルギー基本計画(2025)

グリーン回廊など国際協力枠組み

貨物の変化や燃料・電源需要への対応

独自景観や自然環境・生態系

特別名勝松島 蒲生干潟

CO2吸収源

ブルーカーボン・生態系

気候変動や港湾の開発等の影響

塩釜港湾・空港整備事務所HPより

国際拠点港湾として社会要請

や事業者の需要に適切に対応

脱炭素化社会の実現をけん引

国際競争力の確保

貴重な資源として保全・共生

港湾機能と共生できるように適切に配慮

<掲載する主要施策の例>

脱炭素社会の実現

- ◆ 地域の脱炭素化をけん引するカーボンニュートラルポートの形成の取組
- ◆ CNP認証ロゴ(国土交通省港湾局)
- ◆ インバータ制御方式のGC3号機(仙台湾区)
- ◆ 船舶等への電源や低炭素燃料の供給
- ◆ 水素等次世代エネルギー受給への対応
- ◆ 立地企業の取組支援

自然環境の保全・共生

- ◆ 自然環境や生態系に配慮し、景観と調和した水辺空間の形成
- ◆ 港湾開発等の環境影響の適切な評価と対策の実施

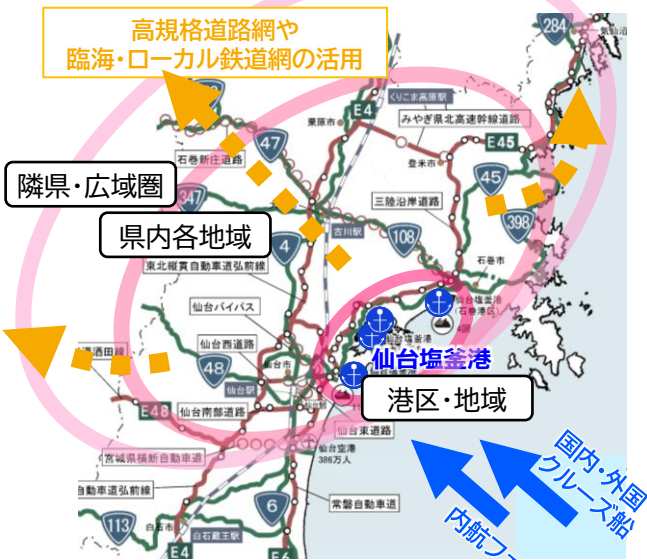
3-2. 各基本戦略(案)の要点 ④

戦略4(観光・交流戦略)

地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

- インバウンドの更なる増加を見据え、クルーズ船寄港や松島観光等の需要に各港区が連携して対応するとともに、円滑な二次交通の確保、広域交通網を生かした周遊ルートの構築などにより、地域、背後圏を含む広域観光振興に貢献するゲートウェイ港湾を目指す。
- 賑わい拠点となるウォーターフロントの形成をはじめ、マリンレジャーや自然景観、文化・歴史的施設などを生かした各港区・地域ならではの魅力ある目的地づくりを推進することにより、人流の増加や地域経済の活性化に貢献していく。

地域、広域観光をつなぐ海の玄関口



インバウンドの更なる増加(地方誘客の重要性↑)

外国クルーズ船寄港需要の増加

寄港地(現状)
仙台港区 石巻港区
(物流港) (工業港)

- ・貨物船利用との調整
- ・仮設テントでの対応

クルーズ船受入機能や環境の不足

二次交通の不足(量・手段)

中・小型クルーズ船寄港需要の増

貴重な体験を求める観光需要の増加

観光消費拡大リピーター確保

地域住民と来訪者の交流活性化

地域と広域をつなぐ広域交通網との連携

港区間の補完・連携によるクルーズ船の受入対応力強化

観光客の快適で円滑な移動の確保

陸上・海上の交通連携による周遊ルート構築

地域ならではの魅力ある目的地づくり

官民の多様な事業主体との連携

インバウンドの増加や地域経済の活性化に貢献

地域の賑わいにも繋がる
東北の広域観光ゲートウェイ

<掲載する主要施策の例>

東北の広域観光ゲートウェイを形成

- ・各港区の連携、補完によるクルーズ船、インバウンド受入体制の強化
- ・寄港地から地域間、広域の幅広い周遊を提案できる円滑な二次交通の連携・確保

↓ 二次交通活用検証事業(東松島市)

試験運行を実施します
くるっと号

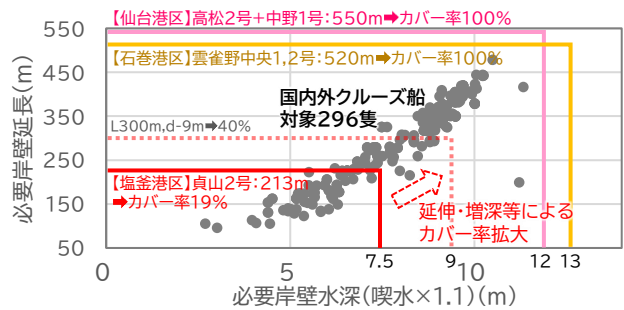
運行期間 9/11(日)～10/26(日)

→塩竈市定期観光船(塩竈市)

地域の賑わい形成・目的地づくり

- ・みなとオアシスの活性化、港湾エリアの観光・交流拠点機能の強化
 - ・自然環境やマリンレジャー等を生かした地域にも親しまれるウォーターフロントの形成
- ※松島観光協会HPより
- ※みなとオアシス マリンゲート塩釜

◆各港区主要岸壁のクルーズ船カバー率



4 将来像を実現するための主要施策（案） について

4-1. 主要施策(案)(物流戦略)

戦略1(物流戦略)

宮城・東北の産業と経済を支え、グローバルサプライチェーンに貢献する最高の港湾物流サービスの提供

主要施策 1 グローバルゲートウェイとして最高のコンテナ物流を実現

- ① 需要増加を見据えたターミナルの拡張と利用効率化・高度化に向けた機能再編
- ② ターミナルの省力化・効率化、利便性の向上に向けたデジタル化やAIの導入を推進
- ③ 多様な貨物需要に対し安定的な輸送を実現・提供する国際海上輸送網の拡充・強化

主要施策 2 国内長距離輸送を支えるユニットロードターミナルの機能強化

- ① フェリー・ROROターミナルの利用高度化や利便性向上の推進
- ② 貨物の搬出入やターミナル内移動の円滑化・効率化に向けた施設の再配置
- ③ ユニット・バルク貨物との混在解消と将来の輸送力不足を補う港区間連携の推進と機能強化

主要施策 3 臨海部産業の持続的発展を支えるバルク港湾機能の強化

- ① 大型貨物船の安全・安心かつ安定的な利用に資する港湾機能の強化
- ② ユニット・バルク貨物の輻輳解消に向けた港区間連携の推進と機能強化(一部再掲)
- ③ 立地企業の動向を踏まえ新たな産業誘致も見据えた工業用地の戦略的な造成

主要施策 4 仙台塩釜港の持続的成長を支える集貨・創貨の促進と港湾人材の確保

- ① 仙台塩釜港の国際競争力と総合力を活かした戦略的なポートセールスの展開
- ② DXによるヒトの支援に加え、多様な職種が集う総合港湾の「職場」としての魅力発信

4-1. 主要施策(案)

戦略1(物流戦略)

宮城・東北の産業と経済を支え、グローバルサプライチェーンに貢献する最高の港湾物流サービスを提供

主要施策 1 グローバルゲートウェイとして最高のコンテナ物流を実現

① 需要増加を見据えたターミナルの拡張と利用効率化・高度化に向けた機能再編

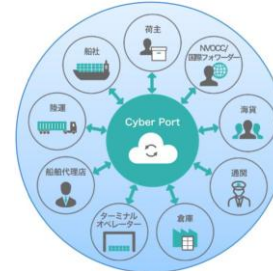


- (将来における拡張の必要性)
- ・コンテナ取扱能力の強化
 - ・機能再編時の代替スペース
 - ・浚渫土の海面処分場
 - ・新たな需要への対応用地

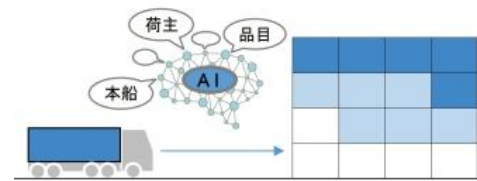


出典:国土交通省資料
荷役効率化に向けた、荷役形式の転換

② ターミナルの省力化・効率化、利便性の向上に向けたデジタル化やAIの導入を推進

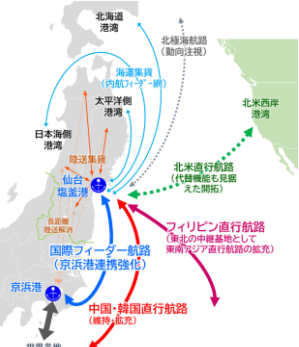


出典:国土交通省資料
港湾手続き等のデジタル化(サイバーポート)



出典:国土交通省資料
AI等を活用したターミナルオペレーションの最適化

③ 多様な貨物需要に対し安定的な輸送を実現・提供する国際海上輸送網の拡充・強化



- ・国際戦略港湾との連携強化(国際フィーダー)
- ・国際ダイレクト航路の拡充
- ・新規航路開拓への挑戦

航路	主な寄港地	船社	便数
中国/韓国	釜山・釜山新港・蔚山・光陽・大連・天津新港・青島・上海・寧波	南星海運 高麗海運	週3便
韓国	釜山・釜山新港	長崎商船 興亜LINE	週2便
中国	上海	SITC Container Lines	週1便
フィリピン	廈門・汕頭・蛇口・南沙・スービックベイ・パタンガス・マニラ	CMA CGM (CNC)	週1便
極東ロシア	釜山・ウラジオストク	FESCO	隔週1便

国際コンテナ船定期航路(2026年3月時点)

・海上輸送への転換を支援する充実した輸送サービスの提供



農産物の輸出における海上輸送転換例



←リーファーコンテナ

危険品コンテナ→



取扱機能の拡充

4-1. 主要施策(案)

戦略1(物流戦略)

宮城・東北の産業と経済を支え、グローバルサプライチェーンに貢献する最高の港湾物流サービスを提供

主要施策 2 国内長距離輸送を支えるユニットロードターミナルの機能強化

① フェリー・ROROターミナルの利用高度化や利便性向上の推進

② 貨物の搬出入やターミナル内移動の円滑化・効率化に向けた施設の再配置

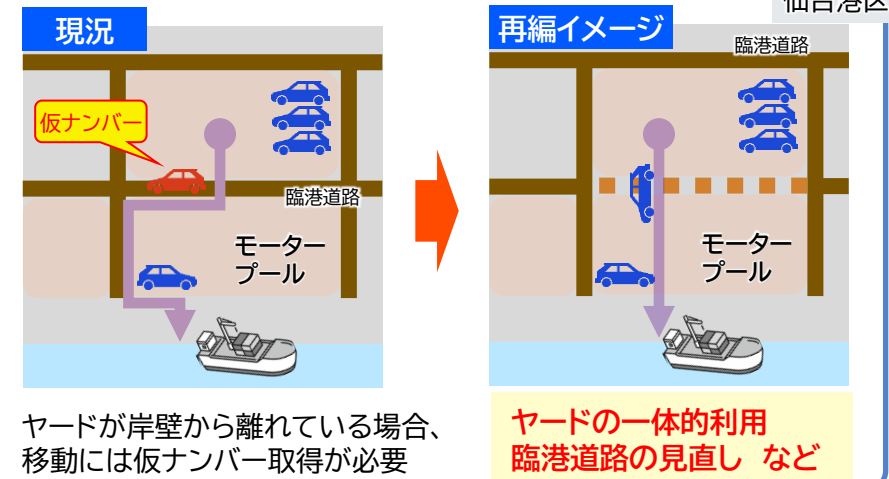
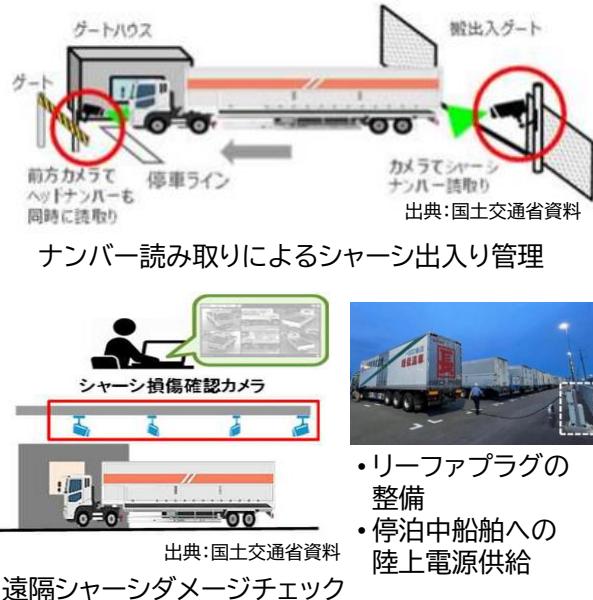
・次世代高規格ユニットロードターミナル(イメージ)



出典:国土交通省資料

RORO船
↑
高規格道路・臨海鉄道など
モータルシフトに対応した
複合一貫輸送機能の強化

・ターミナルでの対応例



③ ユニット・バルク貨物との混在解消と将来の輸送力不足を補う港区間連携の推進と機能強化

他港区(機能強化)ハシフト

他港区(機能強化)が補完

土地利用状況から大幅な能力増は困難

増加

現計画
現状確保

※推定

現状 将来

ヤードの収容能力

ユニット貨物量

バルク貨物の混在利用によるヤード・岸壁利用の過密化

沖待ちの発生

(例)塩釜港区での対応を想定した場合

港貞山地区
貞山地区

・ターミナル機能強化
・アクセス機能強化

バルク・ユニットロード機能の一部を他港区が補完

4-1. 主要施策(案)

戦略1(物流戦略)

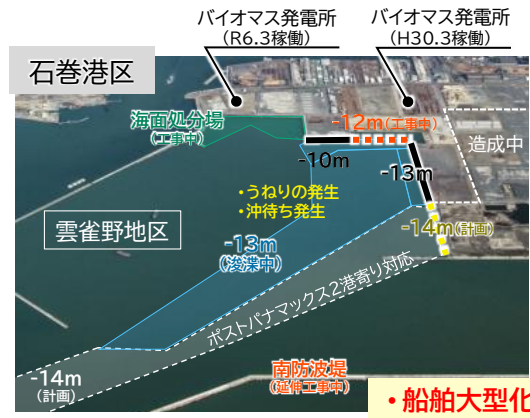
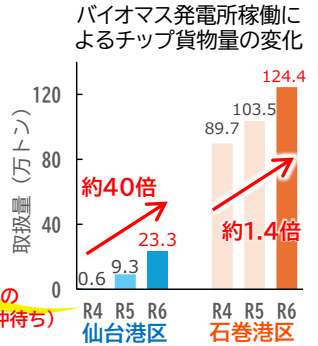
宮城・東北の産業と経済を支え、グローバルサプライチェーンに貢献する最高の港湾物流サービスを提供

主要施策 3 臨海部産業の持続的発展を支えるバルク港湾機能の強化

① 大型貨物船の安全・安心かつ安定的な利用に資する港湾機能の強化

- ◆大型バルク貨物への対応
- ・製紙産業関連(チップ・石炭)
 - ・配合飼料関連(穀物)
 - ・木材、木製品関連(原木)
 - ・バイオマス発電(チップ*)
- ※バイオマス発電燃料となる木質ペレット・PKS 港湾統計分類上「木材チップ」に含まれる

石巻港区
安定供給に貢献
仙台港区



- ・船舶大型化、過密利用⇒岸壁の整備
- ・安全利用⇒静穏度、水深の確保

現状機能で対応(整備中含む)
※石巻:雲雀野地区
※仙台:中野、向洋地区

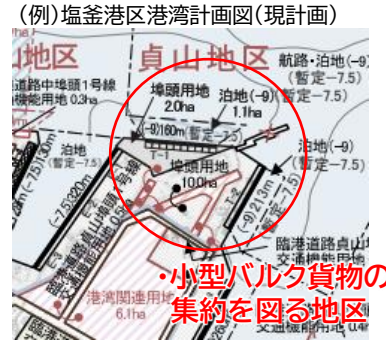
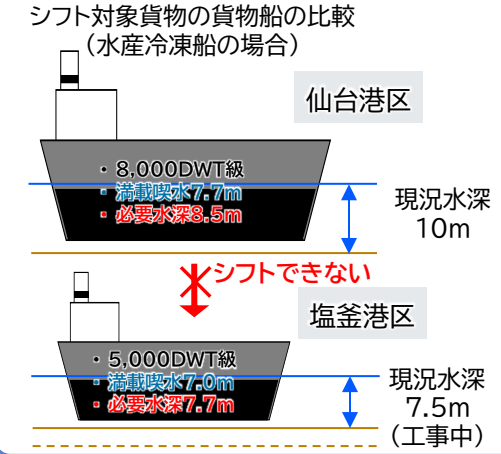
バルク戦略港湾との連携に対応
※釧路港→石巻港区

バルク貨物船の大型化の状況

呼称 (載重量トン)	長さ	満載喫水	必要水深	世界の船舶数・シェア	
				2000年	2020年
ハンディサイズ (1~3万トン級)	174m	9.8m	10.8m	3,947隻 73.6%	7,482隻 62.6%
ハンディマックス (4~6万トン級)	203m	10.8m	11.9m		
パナマックス (6~8万トン級)	225m	12.7m	14.0m	1,396隻 26.1%	4,476隻 37.4%
ポストパナマックス (10万トン級)	264m	15.2m	16.8m		

出典:国土交通省資料を基に宮城県作成

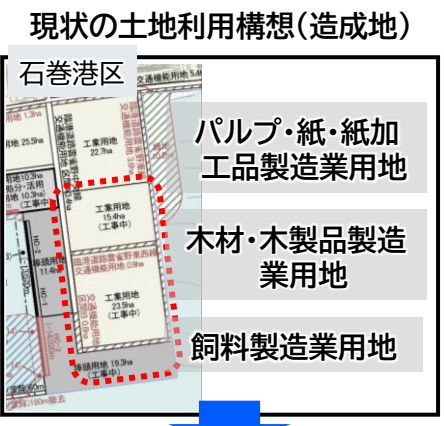
② ユニット・バルク貨物の輻輳解消に向けた港区間連携の推進と機能強化(一部再掲)



・小型バルク貨物の集約を図る地区

・バルク貨物のシフトに対応可能な水深の確保

③ 立地企業の動向を踏まえ新たな産業誘致も見据えた工業用地の戦略的な造成



新たな企業進出や産業誘致に迅速に対応できない場合も

例)仙台塩釜港脱炭素化推進計画で検討した利用可能性

次世代エネルギー(水素・アンモニア等)の関連産業など

用途規制(埋立法)
※1つまたは複数の用途を組み合わせる規制

将来の新たな産業誘致も想定した利用構想を検討

4-1. 主要施策(案)

戦略1(物流戦略)

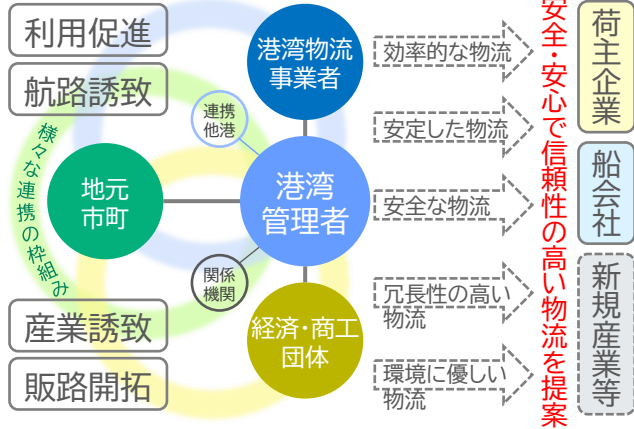
宮城・東北の産業と経済を支え、グローバルサプライチェーンに貢献する最高の港湾物流サービスを提供

主要施策 4 仙台塩釜港の持続的成長を支える集貨・創貨の促進と港湾人材の確保

① 仙台塩釜港の国際競争力と総合力を活かした戦略的なポートセールスの展開

◆ 新規航路の誘致や集貨・創貨の促進

各主体の連携によるポートセールスの推進イメージ



◆ 各種セミナーの開催

仙台港首都圏セミナー
(R8.1.27開催)



(参加:133社・団体)

◆ 企業訪問活動



- 機能や魅力のPR
- 輸送転換・効率化の提案
- 企業進出の支援
- 情報交換、信頼関係構築

② DXによるヒトの支援に加え、多様な職種が集う総合港湾の「職場」としての魅力発信



出典:国土交通省資料

港湾運送の魅力発信



パウダーコーナー

健康コーナー

出典:国土交通省資料

労働環境整備(DXによる取組含む)

◆ 魅力向上(競争力強化)に向けた取組

・港湾機能の強化、利便性の向上



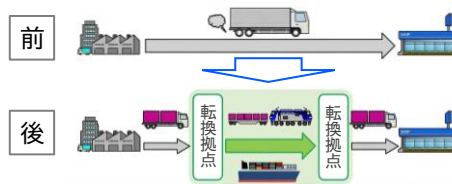
航路・泊地

岸壁・防波堤

出典:塩釜港湾・空港整備事務所HP

・モーダルシフトの促進

2026年度より、インセンティブ制度創設

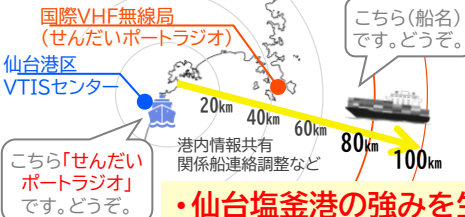


出典:国土交通省HPより一部加工

・脱炭素化の推進



CNP Certification
CNP認証制度の取得



◆ 仙台塩釜港の強みを生かし、官民連携してポートセールスを推進



出典:「明日の仙台塩釜港を考える懇談会」

学生ワークショップの実施等による、港湾の魅力向上に向けた検討

4-2. 主要施策(案)(防災・施設維持戦略)

戦略2(防災・施設維持戦略)

BCPが充実した安全・安心で強靱な広域海上防災拠点を構築

主要施策 1 サプライチェーン維持と海上防災支援を担う拠点機能の強化

- ① 耐震強化岸壁等の適切な配置と背後の緊急輸送ネットワークへのアクセス強化
- ② 応急復旧作業や緊急物資輸送の基地となる十分なオープンスペースの確保
- ③ 海上保安基地として巡視船艇を適切に収容可能な空間の確保
- ④ 港区間や他圏域の被災港湾のバックアップを見据えた港湾機能の強化

主要施策 2 持続可能で強靱な港湾の形成に向けた施設の計画的メンテナンスの推進

- ① 被災後の早期機能回復に資する港湾施設の計画的な維持管理の推進
- ② 航路・泊地機能を適切に維持するための浚渫土砂海面処分場の確保

主要施策 3 県内外の広域的な支援体制の構築と港湾BCPの充実強化

- ① あらゆる危機的事象を想定した港湾BCPの整備・拡充と実効性確保の取組推進
- ② 離島・半島地域を含む広域の海上防災支援を見据えた連携体制の構築
- ③ 首都圏など東北圏域を超えた物流機能の広域支援体制の構築
- ④ 将来の気候変動を見据えた心頭のリスク評価と官民連携体制の構築(協働防護)

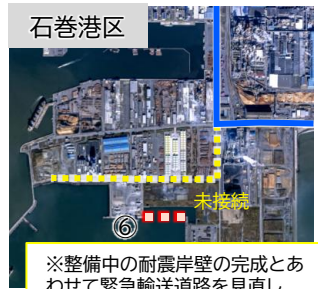
4-2. 主要施策(案)

戦略2(防災・施設維持戦略)

BCPが充実した安全・安心で強靱な広域防災拠点を構築

主要施策 1 サプライチェーン維持と海上防災支援を担う拠点機能の強化

① 耐震岸壁等の適切な配置と背後の緊急輸送NWへのアクセス強化



現計画の耐震施設の配置の考え方

港区	図番	機能	水深
仙台	①	国際物流機能維持用	-14m
	②	緊急物資輸送用	-12m
	③	緊急物資輸送用	-9m
塩釜	④	緊急物資輸送用	-9m
	⑤	緊急物資輸送用(離島)	-4m
石巻	⑥	緊急物資輸送用	-12m

- ・各港区で所定の耐震バースを確保
- ・緊急輸送路と未接続や迂回が生じる箇所のアクセス強化

③ 海上保安基地として巡視船艇を適切に收容可能な空間の確保



- ・現在の利用状況、物流・観光面の利用を踏まえて適切に配置

② 応急作業や緊急物資輸送の基地となる十分な空間の確保

港湾における防災スペースの機能

- ① 救援部隊の被災地への進出、宿営、資機材集積
- ② 臨時のヘリポート
- ③ 港湾内の利用者や労働者、港湾の周辺住民等の避難地
- ④ 緊急物資の一時保管・仕分け場所

港湾緑地を防災基地として使用するイメージ (Geminiの画像生成による)



応急・防災作業に従事する船舶の係留機能の確保

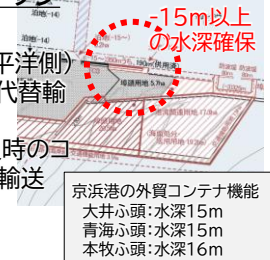
※臨海部防災拠点マニュアル(H28.3港湾局)

- ・耐震施設の配置やアクセス性を踏まえた一体的な空間の確保
- ・防災活動に従事する船舶が係留可能な場所の確保

④ 港区間や他圏域の被災港湾バックアップを見据えた港湾機能の強化

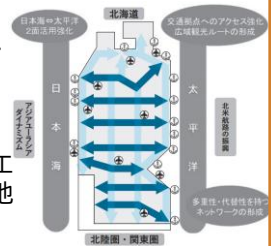
国際コンテナ物流のバックアップ

- ・東北圏(太平洋側)のコンテナ代替輸送
- ・京浜港被災時のコンテナ代替輸送



東北へのバルク貨物(燃料・原材料等)の供給バックアップ

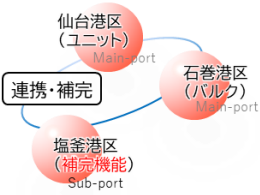
- ・製造原料や畜産・農業飼肥料の供給基地として
- ・石油製品などのエネルギー供給基地として



東北圏の広域道路ネットワークとの連携

港区間相互のバックアップ

- ・物流補完機能強化により、被災時にも各港区が連携して対応



東北の国際拠点港湾として

3つのバックアップ機能の確保を目指す

4-2. 主要施策(案)

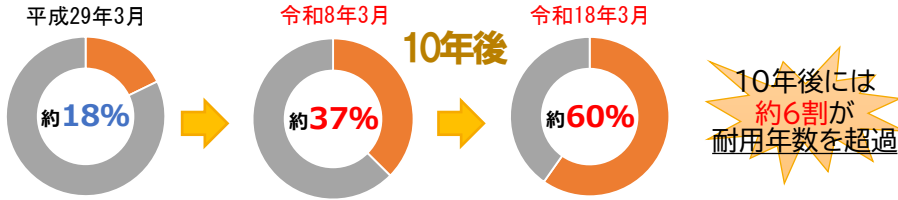
戦略2(防災・施設維持戦略)

BCPが充実した安全・安心で強靱な広域防災拠点を構築

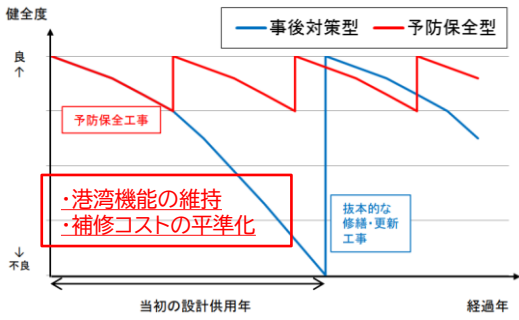
4. 将来像を実現するための主要施策(案)

主要施策 2 持続可能で強靱な港湾の形成に向けた施設の計画的メンテナンスの推進

① 被災後の早期機能回復に資する港湾施設の計画的維持管理の推進



供用後50年以上経過する港湾施設の割合 ※宮城県港湾全体



予防保全型と事後保全型の維持管理イメージ

現状で健全度が低い施設の補修

予防保全型維持管理への完全移行

平時・災害時の港湾機能の維持(強靱化)

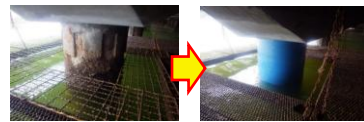
宮城県 港湾施設長寿命化計画 (案)

宮城県港湾施設長寿命化計画 (第1回改定版)

- 対象施設数の見直し、重要度に応じた対策
- 新技術の積極的な採用(点検手法・補修工法)
- 劣化予測に基づく計画的な予防保全対策

平成29年3月 宮城県港湾課

令和 年月 宮城県土木部港湾課

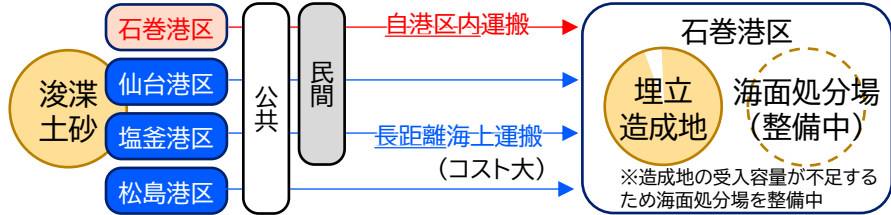


・長寿命化計画に基づく予防保全型維持管理の推進

② 航路・泊地機能を適切に維持するための浚渫土砂海面処分場の確保

浚渫土の海面処分の現状

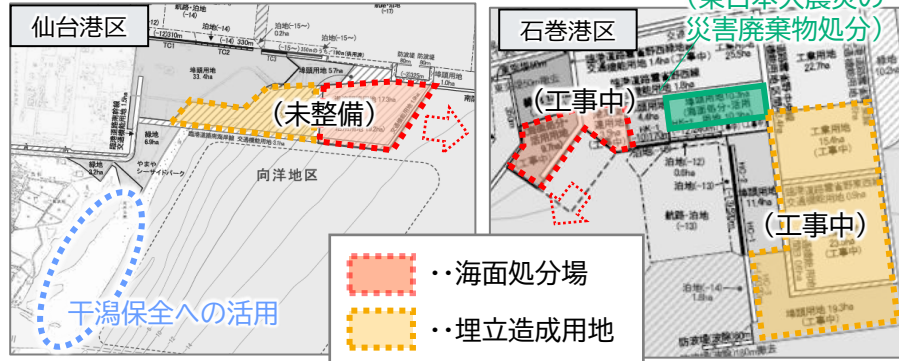
現状で利用可能な処分空間は石巻港区のみ



- ・航路・泊地整備
- ・水深維持・確保
- ・(災害廃棄物)

- ・経済的で持続可能な浚渫・処分
- ・維持浚渫量等を含めた総容量の確保

現計画の主な埋立地と海面処分場(松島港区を除く)



(東日本大震災の災害廃棄物処分)

塩釜港区



- ・自港区内処分が可能な空間の確保
- ・海面処分場の拡張など受け入れ総容量の確保
- ・干潟や浅場造成など浚渫土の有効活用

4-2. 主要施策(案)

戦略2(防災・施設維持戦略)

BCPが充実した安全・安心で強靱な広域防災拠点を構築

4. 将来像を実現するための主要施策(案)

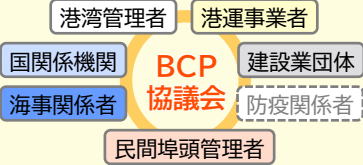
主要施策 3 県内外の広域的な支援体制の構築と港湾BCPの充実強化

① あらゆる危機的事象を想定した港湾BCPの整備・拡充と実効性確保の取組推進

仙台塩釜港 港湾BCP

- 地震・津波
- 高潮・暴風(事前防災)
- 感染症

<実施体制>



サイバーセキュリティ
・サイバー攻撃(名古屋港)
・TOSの維持

広域的な支援
・離半島防災
・被災地支援輸送

コンテナターミナル
・経済活動維持輸送

あらゆる事象に対応したBCP



② 離島・半島地域を含む広域の海上防災支援を見据えた連携体制の構築



- 【ネットワークの主な機能】
- 被災者の救援輸送拠点
 - 支援物資輸送拠点
 - 生活支援拠点



命のみなとネットワーク形成の取組

防災拠点 港湾協議会

石巻市、塩竈市、大船渡市、久慈市、宮古市、釜石市



震災の教訓として広域支援の必要性を発信

宮城県における離半島との海上支援ネットワークのイメージ

・地元自治体の取組や漁港管理者等と連携しながら体制構築を推進

③ 首都圏など東北圏域を超えた物流機能の広域支援体制の構築

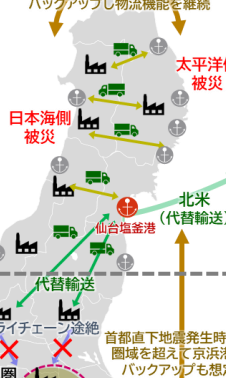
東北圏の既存の枠組み(東北広域港湾BCP)

- 代替輸送貨物の円滑な受け入れ
- 被災港湾の需給ギャップの解消

※一方で、事前対策が不十分な場合、早急な輸送ニーズに対応できず被災港湾の貨物が扱えないことが想定される。



東北の太平洋側と日本海側が相互にバックアップし物流機能を継続



首都直下地震発生時には圏域を超えて京浜港のバックアップも想定

国においてもBCPの議論が加速

東京湾閉塞時に想定されるコンテナシフト量 15,455 TEU/日

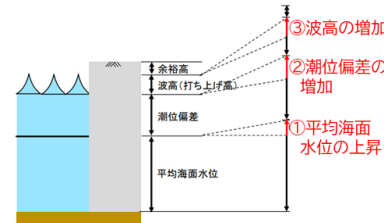
コンテナターミナルにおける事業継続計画検討委員会資料(国交省)を基に作成



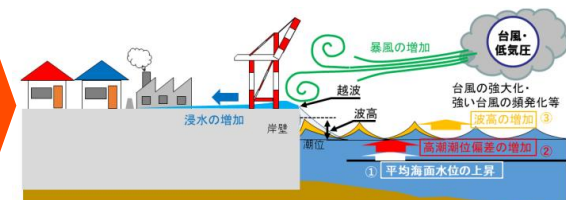
・国の検討状況も確認しながら広域代替輸送の実現を目指す

④ 将来の気候変動を見据えた心頭のリスク評価と官民連携体制の構築(協働防護)

気候変動による外力の変化



港湾における被害の増大イメージ



出典:国土交通省資料をもとに一部加工して使用

改正港湾法(R7.4成立)

港湾における官民の関係者が気候変動への適応水準や適応時期に係る共通の目標に向かって一体となって取り組む「協働防護」の枠組みを法制度化

- 今後、仙台塩釜港における将来外力や想定されるリスク評価を検討
- 検討結果を踏まえ、必要に応じて気候変動への適応に向けた取組を推進

4-3. 主要施策(案)(環境戦略)

戦略3(環境戦略)

自然環境と共生し、脱炭素社会の実現をけん引するカーボンニュートラルポートを形成

主要施策 1 国際拠点港湾としての社会的役割を踏まえた脱炭素化の着実な推進

- ① 港湾エリアで活動する多様な主体が連携した脱炭素化の取組推進
- ② 日本の競争力強化に資する国内認証の取得
- ③ 水素・アンモニア等の次世代エネルギーの需要・供給を見据えた環境整備

主要施策 2 自然環境の保全と共生に向けた取組の推進

- ① 自然環境や生態系への影響に配慮し、景観と調和した水辺空間の形成
- ② 自然環境との共生に向けた港湾利用・開発における環境負荷低減の取組推進

4-3. 主要施策(案)

戦略3(環境戦略)

自然環境と共生し、脱炭素社会の実現をけん引するカーボンニュートラルレポートを形成

主要施策 1 地域の脱炭素化をけん引するカーボンニュートラルレポート形成への取組

① 港湾エリアで活動する多様な主体が連携した脱炭素化の取組推進

仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画(R6.3)

<計画の推計排出量と削減目標>
 2013年度(基準年): 約330万トン
 2024年度(現在): 約310万トン
 2030年度(短期): 約165万トン
 2040年度(中期): 約85万トン
 2050年度(長期): 0万トン(実質)



② 日本の競争力強化に資する国内認証の取得

仙台港区

<主な取組>
 ・インバータ制御ガントリークレーンの導入
 ・ターミナル照明のLED化
 ・ストラドルキャリアのハイブリッド化

国際競争力強化への貢献
 (グリーン海運回廊※)

・高砂コンテナターミナルにおけるCNP認証の取得

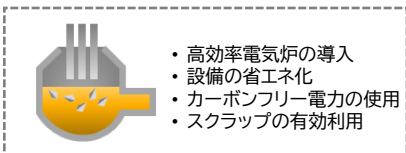
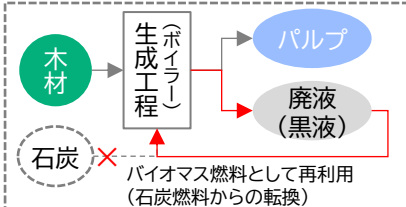
※燃料の製造・輸送時の排出から船上排出を含めたライフサイクル全体で低・脱炭素化された燃料及び技術が導入された航路

CNP Certification
 認証レベル
 レベル5
 レベル4
 レベル3
 レベル2 ← 現状の想定レベル
 レベル1

※取組指標の達成度に応じて認証

◆計画に基づく温室効果ガス削減の取組例

港湾立地企業等の取組例



港湾ターミナルの取組例



◆脱炭素化に貢献する事業例



③ 水素・アンモニア等の次世代エネルギーの需要・供給を見据えた環境整備

工場等
 液化貯蔵設備
 港務物流施設等
 (ローリーでの出荷)
 ローリー出荷設備
 ローディングアーム
 海外からの液化水素輸入
 大型船に対応した機能が必要
 水素キャリア運搬船(イメージ)
 内航船での出荷
 ローディングアーム
 岸壁・I/O
 地上配管
 気化器
 貯蔵タンク
 パイプラインでの出荷
 埋設配管
 発電所等

船舶での受け入れを想定した場合、専用の荷役機械やパイプラインの敷設が必要
 ・また、危険品の荷役があった場合、周辺利用の制限などが想定される。

・仙台塩釜港における企業動向を注視しながら対応していく

水素受入拠点のイメージ
 ※港湾における水素・アンモニアの受入環境整備に係るガイドライン(中間とりまとめ)より(一部加工)

4-3. 主要施策(案)

戦略3(環境戦略)

自然環境と共生し、脱炭素社会の実現をけん引するカーボンニュートラルポートを形成

主要施策 2 自然環境の保全と共生に向けた取組の推進

① 自然環境や生態系へ配慮し、景観と調和した水辺空間を形成

◆ 環境や景観に配慮した水辺空間の整備

・親水護岸等の整備



北浜緑地(塩釜港区)



湊浜緑地(仙台港区)

・景観に配慮した意匠



防潮堤(松島港区)

・整備において、専門家の意見も踏まえ、適切な調和を図る

◆ 適切な緑地機能の確保

・緩衝機能としての緑地整備



向洋緩衝緑地(仙台港区)

・港湾全体で一定の緑地機能を確保

既定計画緑地の状況 ()は現況

港区	港湾面積	緑地面積	緑地率
仙台	691 ha	34ha(27)	5.0%(3.8)
塩釜	151 ha	12ha(12)	8.0%(8.0)
石巻	557 ha	30ha(3)	5.4%(0.6)
合計	1,399 ha	76ha(42)	5.5%(3.0)

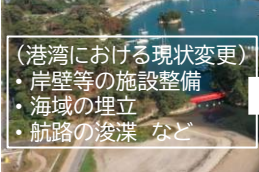
※港湾計画における緑地とは、緩衝緑地のほか、親水緑地、修景緑地、レクリエーション緑地など

・全体で5%以上の緑地機能を確保

◆ 特別名勝の独自景観の保全

・関係法令等を踏まえた整備

(特別名勝松島管理計画における現状変更への対応方針)



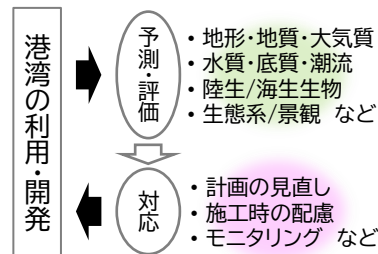
区域	各保護地区における管理(許可)基準
特別保護地区	
第1種保護地区	
第2種保護地区	
第3種保護地区	
海面保護地区	

(共通事項)
港湾・漁港および水産施設は、多様な施設の集合体としてひとつの景観を形成するため、諸施設の配置や、個々の施設の形態、意匠で観賞の場からの眺望に配慮すること。

② 自然環境との適切な共生に向けた環境負荷の低い港湾開発・利用の推進

◆ 港湾整備等における海域環境への配慮

・環境影響の適切な評価と対応



・適切な施工時期

海苔・牡蠣養殖に係る制限期間(コンクリート工事)

港区	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
仙台		種	←	→
塩釜		付	←	→
松島		け	←	→
石巻	←	期	←	→

※関係漁協との協議により変更の場合あり

◆ 環境共生型の港湾整備

・浚渫土の有効利用

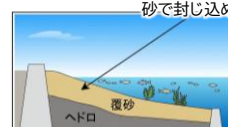


浚渫の実施



干潟造成に港湾浚渫土を活用

出典:周南市HP(大島干潟)



砂で封じ込め

国土交通省資料を一部加工

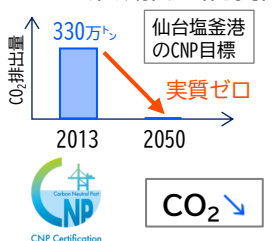
養浜や浅場造成・底質改善等



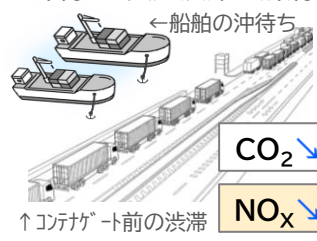
港湾施設における藻場の造成

◆ 港湾利用の脱炭素化・効率化等による環境全体への負荷低減

・CNP形成推進(再掲)



・沖待ち、交通渋滞の解消



・資源循環の取組

立地企業の主な取組例

品目	再生用途
古紙	製紙原料
黒液	製紙燃料
スクラップ	製鉄原料
廃プラ	再生パレット
建築廃材	バイオマス発電
廃食油	バイオ燃料

4-2. 主要施策(案)(観光・交流戦略)

戦略4(観光・交流戦略)

地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

主要施策 1 各港区の連携・補完によるクルーズ船、インバウンドの受け入れ体制の強化

- ① 需要増大が見込まれる中・小型クルーズ船への対応力の強化
- ② 寄港地から日本三景「松島」への海上ルートを活用促進
- ③ クルーズ船寄港地から周辺地域間、広域圏への円滑な二次交通の連携・確保を推進

主要施策 2 地域の賑わい拠点となるウォータフロントの形成と魅力ある観光目的地づくりの推進

- ① みなとオアシスの活性化と港湾エリアの観光・交流拠点機能の強化
- ② 各港区や地域の特性を生かした魅力ある観光資源の創出と活用の推進
- ③ 観光客のみならず、地域住民や港湾労働者にも親しまれる快適な港湾空間の整備

主要施策 3 地域の実情を踏まえた適切なマリレジャーの推進

- ① 放置艇ゼロに向けた安全なマリーナ等の係留場所の確保を推進
- ② 自然環境や景観と調和した海洋性レクリエーションの促進
- ③ 地域住民や他の港湾利用にも配慮した適切なマリレジャー環境の構築

4-4. 主要施策(案)

戦略4(観光・交流戦略)

地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

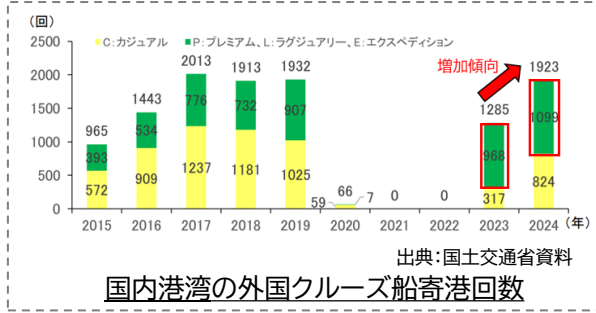
主要施策 1 各港区の連携・補完によるクルーズ船、インバウンドの受け入れ体制の強化

① 需要増大が見込まれる中・小型クルーズ船への対応力の強化

クルーズ船の区分と各港区の基本的な対応方針

区分	規模	全長目安	乗客数目安	各港区の対応
カジュアル	大型	360 ~300m	約6,000人 ~2,000人	仙台港区 ※仙台は一定程度を想定
プレミアム	中型 ~大型	320 ~250m	約3,000人 ~1,000人	石巻港区
ラグジュアリー	小型 ~中型	250 ~150m	約1,000 ~100人	塩釜港区 (現状)
エクスペディション	小型	150 ~90m	約300 ~50人	塩釜港区 (現状)

国土交通省資料を基に作成

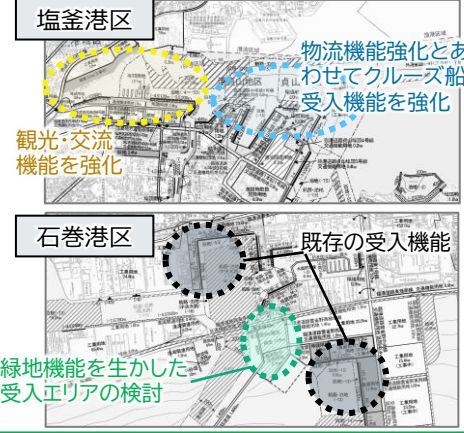


出典:国土交通省資料

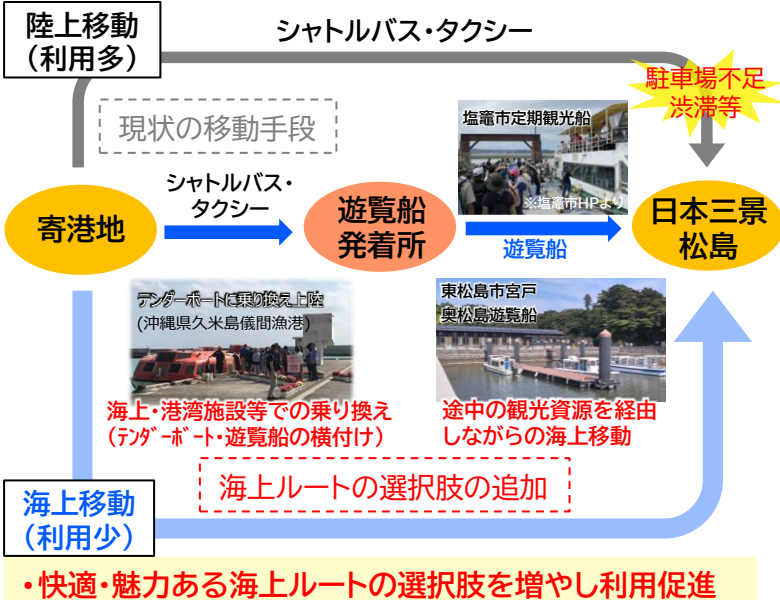
国内港湾の外国クルーズ船寄港回数

・小・中型級をターゲットに塩釜港区での受入促進

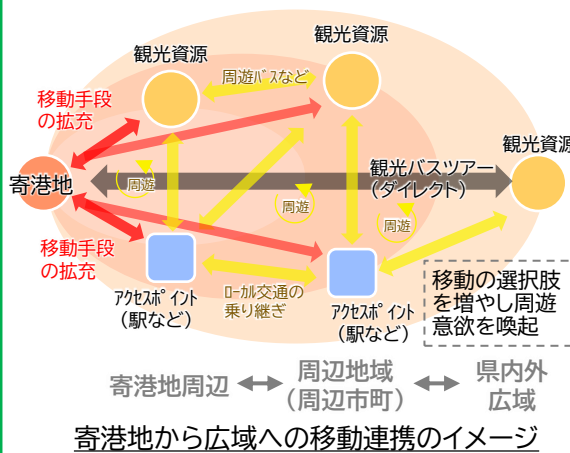
・受入機能の強化の考え方



② 寄港地から日本三景「松島」への海上ルートを活用促進



③ クルーズ船寄港地から周辺地域間、広域圏への円滑な二次交通の連携・確保を推進



移動手段の例(従来+将来)

エリア	移動手段
寄港地周辺	徒歩、レンタサイクル、タクシー、スローモビリティ、パーソナルモビリティなど
周辺地域	タクシー、路線バス、周遊バス、遊覧船、鉄道(在来線、臨時便、臨海鉄道)、小型モビリティ(AIガイド付)、自動運転シャトルバス、MaaS連携、など
県内外広域	鉄道(在来線)、高速バス、観光バス・タクシーなど



・寄港地から周辺地域の観光スポットや最寄り駅など、比較的近距离の周遊性の高い移動手段を充実化

4-4. 主要施策(案)

戦略4(観光・交流戦略)

地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

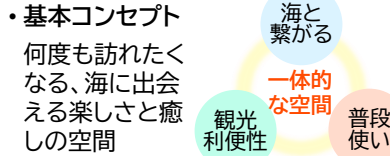
主要施策 2 地域の賑わい拠点となるウォーターフロントの形成と魅力ある観光目的地づくりの推進

① みなとオアシスの活性化と港湾エリアの観光・交流拠点機能の強化

塩釜港区 みなとオアシスマリンゲート塩釜



塩釜港旅客ターミナル再活性化基本構想(塩竈市)



・港奥部の一体的な利用空間を形成し、拠点機能を強化

仙台港区 みなとオアシス仙台港



13施設が1つのみなとオアシスを構成

番号	施設名
①	三井アウトレットパーク仙台港
②	仙台港国際ビジネスサポートセンター
③	みやぎ産業交流センター
④	中野緑地(修景緑地)
⑤	フェリー埠頭ターミナル
⑥	中央公園(NX仙台港パーク)
⑦	向洋海浜公園(やまやシーサイドパーク)
⑧	キリンビール仙台工場
⑨	キリンピアポート仙台
⑩	天然温泉海神の湯ドリーミンEXPRESS仙台シーサイド
⑪	中野中央公園
⑫	仙台商みの杜水族館
⑬	高砂中央公園

出典: 国土地理院ウェブサイトの地図を基に宮城県作成
(<https://maps.gsi.go.jp/#15/38.269892/141.005273/&base=pale&ls=pale%7Cminato&disp=11&lcd=minato&vs=c0g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f0>)

- ・港湾空間と商業空間の連携構築
- ・港湾空間への人流の誘導策(魅力的なコンテンツ)

② 各港区や地域の特性を生かした魅力ある観光資源の創出と活用の推進

- ・港の歴史と運河群のストーリーリズム
- ・みなとオアシス間の連携



③ 観光客のみならず、地域住民や港湾労働者にも親しまれる快適な港湾空間の整備

- ・様々な利用形態を踏まえた緑地機能の確保

用途	具体例	対応例
憩いの場	読書、休憩、散歩	休憩所、ベンチ、芝生広場
交流イベント	地場産品販売会、フリーマーケット	広場や交流施設
教育・体験	船の見学、自然観察や体験	栈橋、親水施設
健康・運動	ウォーキング、親水レクリエーション	遊歩道、親水施設、健康遊具
観光・賑わい	景観、カフェ、祭り、花火、コンサート	展望施設、集客施設、催事施設



- ・利用者の快適性確保の例 (出典: 国土交通省資料)



- ・日常使いを意識しながら、様々な主体と連携した賑わい空間を形成

4-4. 主要施策(案)

戦略4(観光・交流戦略)

地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

主要施策 3 地域の実情を踏まえた適切なマリナーレジャーの推進

① 放置艇ゼロに向けた安全なマリーナ等の係留場所の確保を推進

既設プレジャーボート収容施設の収容能力

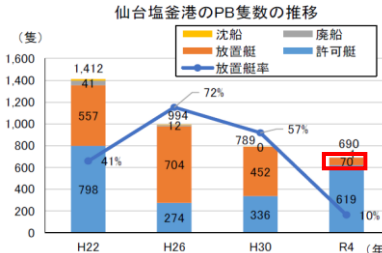
港区	管理	施設名	水域	陸域	合計
塩釜港区	県	中の島PBS	179	0	179
		笠神PBS ※	54	0	54
		要害地区 暫定係留施設	33	0	33
		追の浜地区 暫定係留施設	17	0	17
		東宮浜地区 暫定係留施設	65	0	65
	清水浜地区 暫定係留施設	93	0	93	
	谷地地区 暫定係留施設	17	0	17	
民間	マリンテック	12	25	37	
	パシフィックオーシャンマリーナ	76	0	76	
	くろしお北浜マリンベース	70	70	140	
	小浜ヨットハーバー	65	0	65	
塩釜港区 計			681	95	776
松島港区	県	松島ヨットハーバー	20	40	60
石巻港区	市	南浜マリーナ ※	30	130	160
合計			731	265	996

【塩釜港区】
中の島プレジャーボート
スポット

【松島港区】
松島ヨットハーバー

※松島ヨットハーバー HPより

※河川重複区域 資料:「係留・保管施設調査票/放置艇調査票」宮城県



・公共マリーナだけではなく、民間マリーナも整備されており、収容能力は確保されているが、一部地域では**放置艇や収容能力不足**が確認されている。

・一部地域では小型船だまり施設の**利用環境や悪く、利用頻度が少ない**箇所も見られる。



- ・公的マリーナと民間マリーナの連携による受け皿の確保
- ・小型船だまり施設の利用状況を踏まえた見直し

② 自然環境や景観と調和した海洋性レクリエーションの促進



地域・民間と連携したレクリエーション内容の充実化

(自然環境を活かした体験型レクリエーション、景観と調和したウォーターフロント利用、環境負荷の小さいマリナーレジャー、港湾施設の有効活用)

③ 地域住民や他の港湾利用にも配慮した適切なマリナーレジャー環境の構築

・地域住民やインバウンド旅行者は**マリナーレジャー可能エリアを把握していない**ことから、誤って港湾荷役エリアに侵入することがあり、事故発生などの恐れがあることから、**共通の指標**などを用いて分かりやすく明示する必要がある。



※生成AI

※生成AI

・マリナーレジャー環境の構築にあたり、仙台塩釜港周辺は**漁業権が広く設定されている**ことから、マリナーレジャー利用を推進する場合、**安全性の確保や従来からの利用者との調整、活動エリアの区分・指定**などの対策が必要となる。



※生成AI

- ・あらゆる利用者理解できるルールの見える化(ピクトグラムの活用等)
- ・行政区域(港湾、漁港など)にとらわれないマリナーレジャー環境の構築

5 長期的な港湾空間利用方針（案） について

5-1. 港湾空間利用の考え方






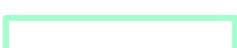


【港湾空間利用方針(ゾーニング)とは】

- ◆ 限られた港湾空間を計画的・効率的に利用するため、港のエリアを用途や機能(ゾーン)ごとに区分するもの。

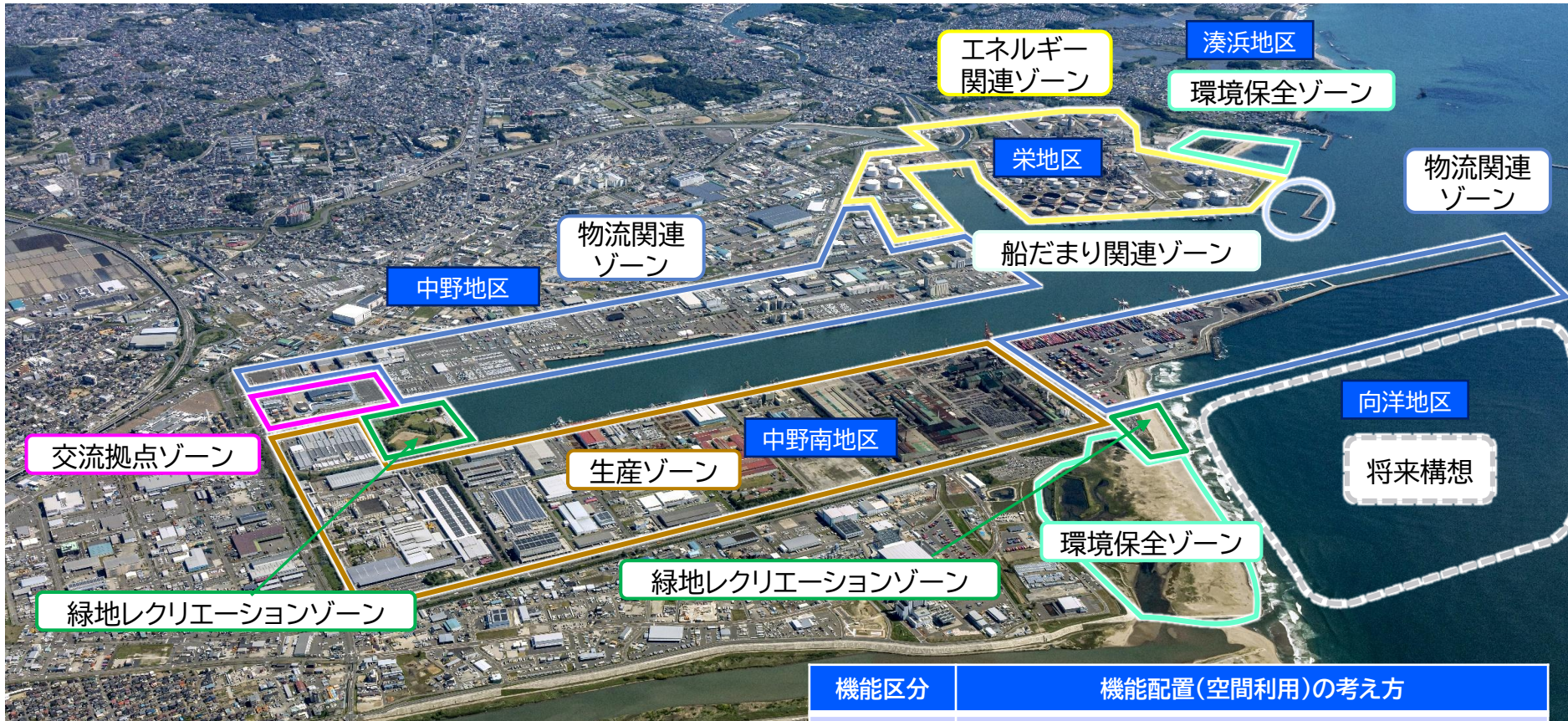
【仙台塩釜港のゾーニングの基本方針】

- ◆ 仙台塩釜港に対する多くの要請を「総合港湾」として一元的に受け止め、全体的に空間利用の効率化を図る。
- ◆ 具体の機能配置においては、現有機能を十分考慮するほか、「総合港湾」における連携・補完の考え方に基づき、既存ストックを最大限に活用することで、新たな空間利用(開発)を最小限とする。
- ◆ なお、新たな空間利用においては、長期的な需要見通しを踏まえ、適切に配置するとともに、周辺環境への配慮、自然環境との調和に留意する。

ゾーニングの基本的な分類

分類	凡例	利用の内容
物流関連ゾーン		物流ターミナルとして利用するふ頭用地、倉庫用地等
交流拠点ゾーン		観光やイベントなど、港湾を通じた国内外の様々な交流活動を推進するエリアや施設用地
生産ゾーン		港湾に関連した生産・加工工場等の敷地、そのための専用ふ頭
エネルギー関連ゾーン		石油、ガス等危険物を取り扱う用地、そのための係留施設等
緑地レクリエーションゾーン		海洋性レクリエーションのための海浜やマリーナ、港湾関係者や地域住民が利用する緑地等
環境保全ゾーン		自然環境や景観の保全・再生を図る空間
船だまり関連ゾーン		作業船、ポートサービス船、観光庁船、漁船等を係留する空間
将来構想		将来の港湾需要に応じて、開発・利用を図る空間

5-2. 空間利用計画(案) 仙台港区



機能区分	機能配置(空間利用)の考え方
物流関連ゾーン	<p>【中野地区(雷神埠頭～高松埠頭の公共埠頭とその背後)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現有機能である物流関連ゾーンに位置づける ・ユニット・バルク貨物の混在解消に向け、施設の再配置を図る <p>【向洋地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現有機能である物流関連ゾーンに位置づける ・更なる貨物増加に対応するため、南防波堤沿いの沖合に展開を図る
生産ゾーン	<p>【中野南地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後とも生産ゾーンとして機能を維持する

機能区分	機能配置(空間利用)の考え方
エネルギー関連ゾーン	<p>【栄地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城・東北の生産活動や市民生活を支えるエネルギー関連ゾーンとして機能を維持する
交流拠点ゾーン	<p>【中野地区西エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後とも交流拠点ゾーンとして機能を維持する
緑地レクリエーションゾーン	<p>【向洋地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋性レクリエーションなど、人々が憩い休息できる場として、海浜の維持及び利便性の向上を図る
環境保全ゾーン	<p>【蒲生干潟】【湊浜地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒲生干潟及び周辺地区は、自然環境保全ゾーンに位置づけ、その環境保全に努めていく

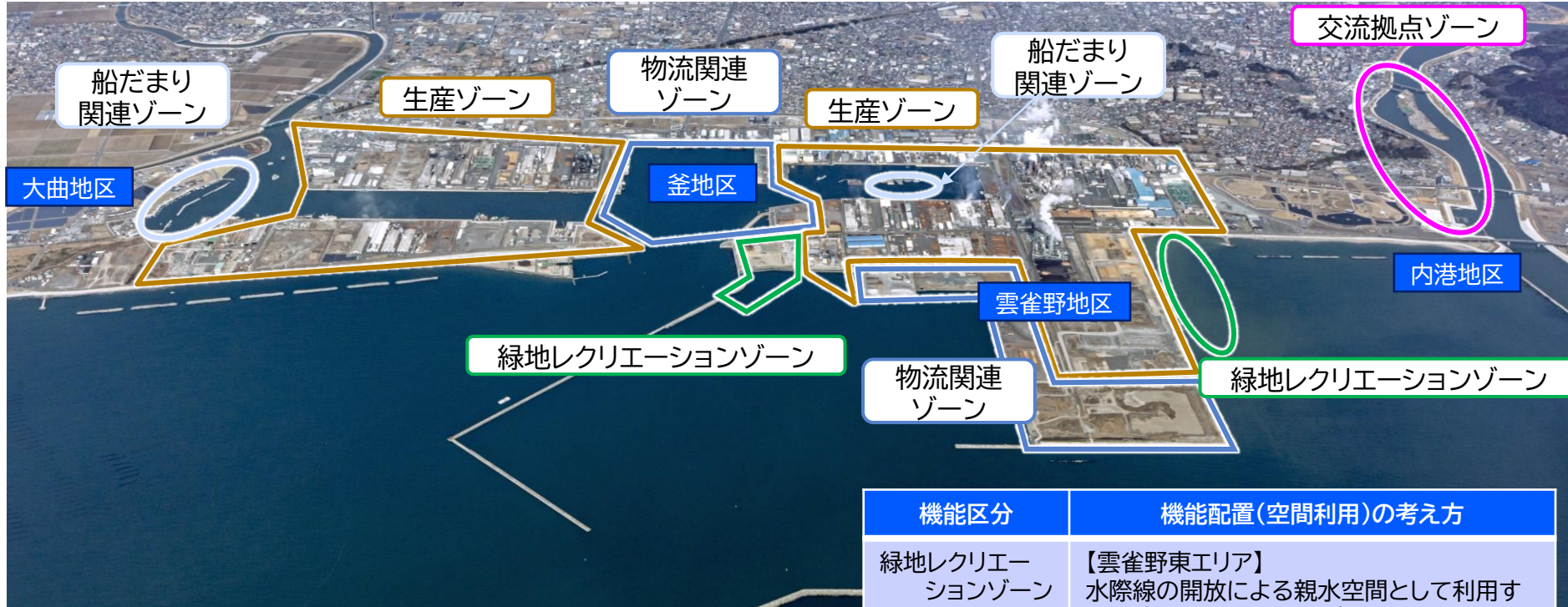
5-2. 空間利用計画(案) 塩釜港区



機能区分	機能配置(空間利用)の考え方
物流関連ゾーン	【貞山地区・港貞山地区】 ・現有機能である物流関連ゾーンに位置づける ・物流ニーズを踏まえ、適正なバース規模を確保する 【東宮地区】 ・現有機能である物流関連ゾーンに位置づける
生産ゾーン	【港地区・東宮地区】 ・今後とも生産ゾーンとして機能を維持する
エネルギー関連ゾーン	【一本松地区・代ヶ崎地区】 ・一本松地区の危険物取扱用地、代ヶ崎地区の工業用地は、仙台都市圏の生産活動や市民生活を支えるエネルギー関連ゾーンとして機能を維持する
交流拠点ゾーン	【港地区】 ・港奥部の観光棧橋周辺の空間は観光客のみならず、地域住民にも親しまれる快適な港湾空間を形成し、みなとまち塩釜の活性化に貢献する交流拠点ゾーンに位置づける

機能区分	機能配置(空間利用)の考え方
緑地レクリエーションゾーン	【港地区】 ・環境と景観に配慮した水辺空間の整備を促進する緑地・レクリエーションゾーンに位置づける 【中の島地区】 ・歴史遺産の貞山運河を活かしたプレジャーボート収容機能を維持する
船だまり関連ゾーン	【港貞山地区】 ・海上保安基地として巡視船艇及びポートサービス船等の集約を図る船だまり関連ゾーンに位置づける 【東宮地区・代ヶ崎地区】 ・現有機能どおり漁船等を中心とした船だまり関連ゾーンに位置付ける
環境保全ゾーン	・特別名勝松島保護区を自然環境保全ゾーンに位置づけ、みなとまち塩釜の活性化に貢献する場として、その利用を促進していく

5-2. 空間利用計画(案) 石巻港区



機能区分	機能配置(空間利用)の考え方
物流関連ゾーン	【雲雀野地区】 大型バルク船に対応した物流関連ゾーンに位置づける 【釜地区】 現有機能を維持する物流関連ゾーンに位置づける
生産ゾーン	【釜地区東エリア】 木材関連・飼料関連等の企業が立地しており、地域の生産拠点として、今後も生産ゾーンに位置づける 【釜地区西エリア】 木材・木製品関連や鉄鋼・金属製品関連企業が立地しており、地域の生産拠点として、今後も生産ゾーンに位置づける 【雲雀野地区】 既存企業の生産活動の拡大、新規企業誘致に対応する生産ゾーンに位置づける

機能区分	機能配置(空間利用)の考え方
緑地レクリエーションゾーン	【雲雀野東エリア】 水際線の開放による親水空間として利用する緑地レクリエーションゾーンに位置づける 【雲雀野西エリア】 耐震強化岸壁と連携して広域防災拠点を形成する緑地レクリエーションゾーンに位置づける
交流拠点ゾーン	【内港地区】 既存機能と連携した交流拠点ゾーンに位置づける
船だまり関連ゾーン	【釜地区】 水面貯木場を転用し、作業船等を収容する船だまり関連ゾーンに位置づける 【大曲地区】 既存の漁船施設を維持するとともに、新たにプレジャーボート等の収容を図る船だまりゾーンに位置づける

5-2. 空間利用計画(案) **松島港区**

機能区分	機能配置(空間利用)の考え方
交流拠点ゾーン	海岸前地区は、松島観光クルーズの基地として、機能強化を図る交流拠点ゾーンに位置づける
船だまり関連ゾーン	東浜地区は、漁船等を中心とした既存の船だまりを維持する船だまりゾーンに位置づける
緑地レクリエーションゾーン	浪打浜地区は、既存緑地を維持する緑地・レクリエーションゾーンに位置づける

6 その他（次回開催予定、連絡事項等）

6. 次回開催予定について

- ・次回の開催は、**令和8年8～9月頃**の開催予定とする。
- ・今回いただいた意見及びパブリックコメント等を踏まえ、次回は、**仙台塩釜港長期構想(案)**を提示する予定。

